

新聞は世界への扉

新聞を教育に活用する「NIE活動」について、全国の教員や新聞関係者が情報交換する「第22回NIE全国大会名古屋大会」（日本新聞協会主催、愛知県NIE推進協議会、中日新聞社主管）が3、4の両日、名古屋市熱田区の名古屋国際会議場で開かれる。東海3県では初開催。大会は「新聞を開く 世界をひらく」をスローガンに、記念講演や座談会、公開授業、特別分科会などを通して活発な議論を交わす。

(三浦歩)



NIE全国大会 きょう開幕



若者にメッセージを送る名古屋大の天野教授＝いづれも名古屋市千種区の同大で（畑山巨撮影）

きょう記念講演 天野・名古屋大教授

記念講演に登壇する天野浩・名古屋大教授。世界を変える開発をした研究者は、教育や新聞をどう見ているのか。これから社会に出る高校生記者が取材した。

—どんな高校生でしたか？
勉強は好きではなかったです。やらされている状況でした。特に社会（科）は昔からだいきらい。でも今は好きになりました。

—なぜ社会科が好きになったのですか？
ノーベル賞を受賞して世界に目を向けるようになったのがきっかけ。海外に行き、他国の問題に興味を持

—どんなニュースに興味を持ちますか？
新聞でチェックするのは日本の財政や産業の状況。外国に行く時はその国の財政状況などを調べて、現地ですべての質問をします。その情報を基にして日本の仕組みを考えると面白い。新聞は一見取っつきにくいけれど、一つ一つは興味あることばかりです。

—思考力や解決力を養うにはどんな教育が必要ですか？
対話によって考えを深めるアクティブラーニングも、ひとりで問題と向き合うことも、どちらも重要だと思います。大切なのは、自分で考えて試して、間違っていると気づいたら次のステップにいくこと。

—研究から得た経験は？
研究で挫折を感じたことはありません。装置から手作りできたので、楽しくてしかなかったんです。ただ偉い先生方から「その方法は不可能

「可能性にどんどん挑戦して」

(竹村有紗)

初日は、ものづくりが盛んな愛知県にちなんで、ノーベル物理学賞受賞者で名古屋大の天野浩教授が「世界を照らすLED 未来を照らすこと」の大切さと題して講演する。

女子レスリング五輪メダリストの吉田沙保里選手をはじめ、中日新聞社の小出宣昭顧問・主筆、児童生徒代表らが参加しての座談会「頭の知識の知識」も開かれる。

二日目は、二十六の分科会を実施。県内の教員や児童らが新聞記事を活用した公開授業のほか、授業の実践発表や特別分科会もある。イベントホールでは教員たちのポスター発表や、世界の子どもの新聞の展示などがある。

学校で読める環境を

土屋武志大会実行委員長の話



今回のテーマ「新聞を開く 世界をひらく」の主語は子どもです。新聞を購読する家庭が減る中、必要なのは子どもが学校で新聞を開ける環境をつくること。図書室や、教室の学級文庫のように新聞が身近にあるのがいいと思います。電子情報なら、タブレットを使って大勢で見られます。

大会を通して、新聞を使った授業が特別ではなく、普通だという流れに変えていきたいです。これまでの大会では新聞を使うことが前提でしたが、新聞そのものがなぜ必要であるかも考えられるといいと思います。(聞き手・水谷文香)



今大会の速報号外ドラゴン号で発行

今回、会場内での号外を発行しているドラゴン号Ⅱ写真Ⅱは、中日新聞社が所有する新聞製作・広報車。二〇〇四年の新潟県中越地震を受け、被災地での新聞発行を担う新聞製作車の導入が各社で進む流れの中で、〇五年八月に登場した。普段は学校などの教育機関からの要請を受けて、NIE活動の一環として学校の新聞づくりを行っている。また、マラソン大会などのイベント会場でも号外を発行するために出動している。

ドラゴン号は、二十九人乗りのマイクロバスを改造したもので、一分あたり三十枚印刷できる印刷機を二台と、パソコン二台を備えている。さらに、ガソリンで動く自家発電機を備えており災害時に電源がない状況でも、その場で新聞を編集・発行することができる。(畑山巨)

—研究から得た経験は？
研究で挫折を感じたことはありません。装置から手作りできたので、楽しくてしかなかったんです。ただ偉い先生方から「その方法は不可能



高校生記者のインタビューに答える天野教授(青木咲弥佳撮影)

だ」と批判されることはありません。でも、うのみにせず、反発から取り組むと信じ続けたからだと思います。

—若者へメッセージを。
まずはいろんな人の話を聞くことが大切。ただ、うのみにしないでください。未来を築くという使命感を持ち、先入観を持たずにチャレンジしていくこと。これが時代を進める原動力になると思います。若い人には「可能性」があります。自分がやるんだ！という意識で好きなことにどんどん挑戦してください。

私の一日は朝の新聞から始まる。バサッと広げると、全体が視野に入る大きな紙面。面白そうな記事を探しているとき、ふと思ってもよい見出しが目飛び込んでくる。それが興味のはまることもあった。ネットだとうはいかない。どうしても話題の範囲が狭くなってしまふ。テレビやラジオは素早く事実を伝えるが、背景に迫った深い解説はやはり新聞だろう。日本の学生は積極性に欠けると書かれた記事が印象に残っている。半年前にイギリスの高校で体験した授業。教育制度と学費の違いについて、生徒は「学費が高いならアルバイトをすればいいじゃないか」「勉強する時間をアルバイトに費やしてしまつては元も子もない。その時間のバランスは本人の判断に委ねるべきものではない」など激論を繰り広げていた。思いを言葉にする。話し合いの中で新たな発見もあるに違いない。自分の意見が他の誰かの心を動かすかもしれない。議論とは相手の意見も尊重してお互いに納得ができる答えを探ることではないだろうか。そのために新聞が役立つと感じる。深い解説や論旨の組み立て方が参考になるのはもちろんだが、幅広い話題をいろんな角度から捉える力を養うことができる。そんな恩恵を与えてくれる新聞を今後も読み続け、さまざまな物事も多角的な視点から見られるような人になりたい。(堀田万理恵)

斜知 SHACHI

高校生500人アンケート



また、新聞を全く読まない人が49%で、もっともよく使う情報源は、SNS(ソーシャルネットワークサービス)とインターネットが53%と半数以上を占めた。しかし、「もっとも信頼できるメディア」としては、新聞が全体の48%を占め、相反していることも判明した。

現代はスマートフォンやパソコンなどが普及しているため、高校生もデジタルな媒体に目を向ける傾向が強い。教員が信頼性が高い新聞を使って授業を行うことは、普段の教科書での学びとは違い、生徒の記憶に残りやすく、ワクワクする授業になるのではないだろうか。

Q 新聞を授業に取り入れている先生のイメージは?

ホコホコNEWS編集部は、中部地方在住の高校生500人に新聞に関するアンケートを実施した。新聞を使って授業をしている先生のイメージは、「知的なイメージを持っている人」という意見が多いことが分かった。(安田悠里子、石黒美沙紀、松田結衣)

新聞に対する高校生の率直な意見を聞き取り、「新聞を授業に取り入れてくれる先生」のイメージは、「知的なイメージを持っている人」という意見が多かった。一方で、「授業自体は面白いが、内容がよくわからない」「新聞自体が堅苦しい」という理由も見られるなど、新聞の持つ堅苦しいイメージを指摘する声も少なくなかった。「教科書を使わないため気分転換になる」「若者が新聞に興味を持つきっかけになる」と思うなど、新聞を使った授業に強い興味を持つ意見の生徒もいた。

空前絶後のNIE効果!!

1位 知的

- 国際
- 経済
- 政治
- スポーツ

常に新聞を読んで、授業で使える記事を考えていそう

頭がよさそう

斬新なアイデアを持っていそう

多くの情報量を持っていて、まじめそう

社会のことを教えてくれそう

日常の話題を授業につなげてくれそう

- ↓その他の結果
- 3位 堅苦しい
 - 4位 変わっている
 - 5位 つまらない
 - 6位 カッコイイ

2位 おもしろい

OK!

身近に興味を持てそう

新聞に興味を持つきっかけになりそう

多面的に物事を考えられそう

教科書だけの授業より身近に感じられそう

普段は考えないような角度から新聞を読ませてくれそう

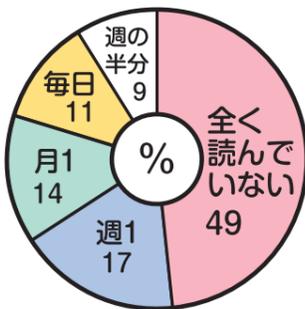
新聞の情報を活用して素敵

信頼できるメディア 知りたくない?

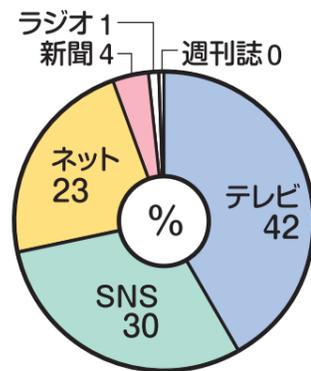
「新聞をどれくらいの頻度で読みますか」についての問いで49%と一番多くを占めた「全く読まない」と答えた高校生たちは、「テレビやネットで情報を得る方が早いから」「読む時間がないから」「新聞をとっていないから」という理由が多数。さらに、全く読まないと答えた人の中で33%の人が「ネットで十分だから」「字が細かく、読む気になれない」などという理由から「将来読みたい」と答えている。

「週1回読んでいます」は17%。「選挙権をもうすぐ持つから、政治について知っておいた方がいいと思うから」、「見出しを見て、興味があるときは見るから」という理由だった。

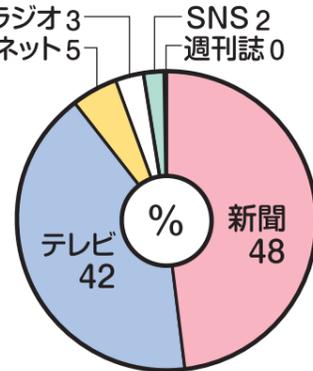
一方で、「毎日読んでいます」と答えた生徒は全体の11%にとどまった。



Q 新聞、読んでる?



Q もっともよく使うメディアは?



Q どのメディアが一番信頼できる?

【アンケートの方法】5~7月にホコホコNEWS編集部員の高校生たちが手渡して回答を依頼するなどして実施。質問は「新聞を読んでいるか」や「最もよく使う情報源は」など10項目で、愛知県を中心に中部地方の高校生500人から回答を得た

「新聞はネットとは違って、自分が思いもしない記事に出会えるのが魅力」と安田さん。「記事を事実と意見に色を分けて線を引いてみると良いです」と高校生にアドバイスをくれた。

事実を伝える新聞とはいえ、記事には記者の思いが形容詞などに表れていることがある。「事実と意見をしっかりと見分けて読んでほしい」。新聞を手にとって実践してみたい。(三輪亮太郎)

安田流 新聞の読み方

フォトジャーナリスト 安田菜津紀さん

